

帯広畜産大学同窓会報

第15号 平成20年10月 帯広市稲田町西2線11番地 帯広畜産大学内 帯広畜産大学 同窓会事務局発行

『BOY's be TRUTHFUL』

同窓会会長

太田 助

(昭和32年総農)



畏兄故大石和也同窓会長のご逝去後の臨時総会で、残任期間の会長をお受けいたしました。微力ですが、会則の目的条項に従って、同窓生の皆様のご協力・ご支援を頂き努力して参りますので、宜しく願い申し上げます。

1953年宮脇 富初代学長が大学を辞す折の最終講義で、『Boy's be Truthful』（今なら Boy's & Girl's be Truthful と書くでしょうが）と黒板に白墨で大書されました。国立で唯一「獣医畜産の単科大学」として“誇りを持って、大学の使命である研究・教育・地域貢献～国際貢献に、尽力せよ!!”との小柄な体躯から発せられた情熱溢れる言葉は、今も私の心臓の鼓動の中に生きております。

日本全国・外国留学生も含めて、国内的・国際的に学生が集い・卒業して各地域に赴き、そこに拠点を持って活躍する様子をロマンチックに歌い挙げている逍遙歌の歌詞を心に刻し、ことあるごとに同期・同窓の仲間と語り合い、かつ歌い続けて来ました。

今・立派になった校舎の全貌を俯瞰する秋、オンボロ校舎や食べることにこと欠いた時代の学生寮を想い隔世の感一入であります。

これまでの歴史のひとつ「学制改革・大学再編」等の大波に曝されながらも、揺るぎない建学の精神を貫き通し、『国立大学法人帯広畜産大学』として現代という衣を纏い、新時代にふさわしい「研究」「教育」「地域貢献・国際貢献」と言う目的遂行のために、学長以下教職員が一体となって、グローバルな視野とローカルにも国内的にも具体的・国民的ニーズに応えるべく努力を傾注する姿を目の当たりにしております。

今や、『農場から食卓までの【食の安全確保】』に貢献している大学として、また、『海外13カ国18大学と学術交流協定』を結び、多くの『留学生を受け入れ、国際交流に貢献』している大学、『21世紀COEプログラムを持つ原虫病研究センター』を有する等々、大学の運営・活動が、法人化後の第三者委員会の高い評

価を得ております。考えてみれば、これはみな『Boy's be Truthful』に通じていると思うのです。

母校が色々な場面で奮闘しております。同窓会も母校の前向きな諸々の取り組みに大きく期待するとともに、“同窓会として出来る協力・支援体制を強めることが大切”と考えます。母校も同窓生や地域からの前向きな要請には出来るだけ応えていく努力をしております。

3年後には大学創立70周年を迎えます。学長を中心にして、記念にふさわしく母校の益々の発展を希い、意義深いものにするべく、学長との連携を密にして、同窓会としても今から何らかの取り組みを始めなければならぬと考えております。

同窓会員は13,169名。既に出来ている支部が30組織、うち、道内8組織。海外にもブラジル、モンゴル等に支部があります。更に留学生が帰国後同窓会を作っているところもあると、聞いております。

どうか既存・新規を問わず、各支部の充実・拡充を図って頂き、各支部間の横の連携も密にして頂いて、母校の進展にご協力をお願い申し上げます。

この際、同窓生の皆様からの建設的な「同窓会に対する意見」「70周年に対する意見」を、お寄せ下さいますようお願い申し上げます。同窓会報の編集方針も変えて、皆様からの寄稿を掲載するようにしようと、役員・事務局で話合っております。

結びに、同窓生個々皆様のご健勝をご祈念申し上げ、重ねて、母校発展のため皆様のお力添えをお願い申し上げます。

「学生中心の大学づくり」

学長

長 澤 秀 行

(昭和53年獣医)



平成20年1月1日付で母校の学長に就任しました。1月4日に新庁舎に引っ越したばかりの文部科学省で、まさに身が引き締まる思いで辞令を頂きました。副学長としての6年間の経験を生かしつつ、スピード感のある大学経営を推進したいと思います。

同窓会報には、これまで6回に渡り「国立大学が担う社会的責任とは」というテーマで寄稿させていただきました。今年度は、国立大学が平成16年に法人化されて以来初めて、文部科学省国立大学評価委員会から総合的な評価を受ける年になります。まさに、大学が社会に対して責任を果たしているかどうかが問われることとなります。

評価の対象は、教育研究、業務運営、財務内容、施設整備、自己点検・評価、情報提供等々多岐に渡っています。特に、研究業績の評価については、具体的にリストアップして、社会に大いに影響を与えた研究業績であることを示し、その根拠も挙げる必要があります。各種の受賞に繋がった論文であるとか、特許申請に繋がりに実用化されている研究業績であるといった理由を記載し、評価委員会がその妥当性をチェックする仕組みです。各大学は、いかに秀でた研究業績をリストアップするか躍起になっている訳です。日頃の先生方の実績に期待するところです。業務運営、財務内容等は執行部に責任があります。計画的に大学経営を行っているか、コンプライアンス、危機管理、業務の効率化、資金運用等々について、進捗状況や達成度を示し、改善事例を強調する必要があります。そして、肝心の「教育」に対する評価ですが、教育の成果については数値や具体的な記載が非常に難しく、頭を痛めています。10月末に実施される評価委員による訪問調査では、実際に卒業生を集めてヒアリングをすることになっています。卒業生や就職先の企業に直接、満足度や課題等を聞き、評価してもらおうのが、大学における教育内容を調査する上で適当とは思いますが、どのように卒業生を抽出し、どのようにすれば代表的な意見を述べてくれるのか、が課題です。

さて、日本の経済・社会の課題を列挙すると、憂鬱になります。少子化は、大学にとって死活問題といわれますが、人口減少社会の到来は大学への志願者が減るといふ些末なことではなく、年金制度の破綻や都市に人口が集中することによる過疎化の問題に繋がります。膨大な長期債務残高の存在は、欧米の先進国の中でも日本は突出していて、今後ますます増加傾向にあります。我が国の労働生産性は米国の7割ほどしかなく、長時間労働でカバーしているのが現状です。ゆとり教育の所為ばかりでもなさそうですが、生徒の学習到達度も先進国に比べると低く、教育立国を目指す教育振興基本計画は、予算の裏付けがなく、大学等の教育機関を中心に地域ぐるみで努力を求める内容になっています。

先日開催された国立大学トップセミナーで、経済界の方から「国立大学への期待」と題して講演がありました。内容は、「国立大学への」というよりは「国公立大学全般への」提言でした。最近の若者は課題を与えても、ろくに考えもせず「正解はなんですか？」と聞いてくる。採用に際して最も重視するのは、大学

の名前でも、大学で教授した知識・技術でもなく、面接でチェックされるコミュニケーション能力だそうです。

大学は社会に貢献する人材の養成に当たるという役割を担っており、学生に高い付加価値を付けて卒業生あるいは修了生として社会に送り出すことが、大学の社会的責任として最も重要なことだと思います。大学評価の多岐に渡る項目も、学生中心に視点を変えると、自ずと期待される成果が見えてきます。本学は、十勝という恵まれたフィールドに位置しています。地域と連携し、創立以来の実学重視の教育を推進し、国際協力を視野に入れたコミュニケーション能力の高い人材育成を進めることが、社会への責任を果たすことになると考えています。

今後も、社会に高く評価される大学づくりを目指して日夜努力していきたいと思っております。同窓の皆様には、変わらぬご支援、引き続き貴重なご意見をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

新しい教育研究組織： 研究域と課程制

理事・副学長

伊藤 繁



同窓生の皆様におかれましては、お元気でご活躍のことと存じます。本年1月から長澤新学長のもとで新体制がスタートしましたが、その際、総務・研究担当の理事・副学長を拝命しました。2年間、よろしくお願いいたします。

新体制における最初の仕事は、新しい教育研究組織の設置でした。本学は、平成14年に、それまでの獣医学科、畜産管理学科、生物資源科学科、畜産環境科学科の4学科体制から、獣医学科、畜産科学科の2学科体制に再編しました。このとき、皆さんの学生時代がそうであったように、学科は教員も学生もいっしょに所属する組織でした。

法人化後、本学には畜産衛生学専攻という博士課程をもつ大学院が設置されました。「食の生産向上と安全確保」を教育研究の柱にするために、獣医学と畜産科学の融合教育をおこなうことによって、本学の特徴を強調しようというわけです。このことが「畜産衛生学」というキーワードに込められています。

この専攻の教員は、制度上、大学院の専任教員となって、学部所属の教員ではなくなりました。大きな大学では、大学院大学になっているところがありますが、制度上、教員は大学院に籍を置き、学部に教えに行くわけです。本学も部分的にそうなったわけです。しかし、実際には学部学生が多いわけですし、学部教育に

まったく参画しないことはできません。そこで、この不合理を改正することが改革の1つの理由です。もう1つの、より重要な理由は、本学の教育研究戦略を推進するためです。平成14年の学科再編は、獣医学以外の教育研究分野の再編でしたが、「獣医・農畜産融合」を推進するためには、獣医学科と畜産科学科の垣根も取り払って「融合」をさらに深める必要があります。「すべての教員がすべての学生を教育する」というスタンスです。

そこで、学部や大学院とは独立の「研究域」という組織を設置し、そこに教員が所属することになりました。研究域は7つの研究部門から成ります。畜産衛生学、臨床獣医学、基礎獣医学、畜産生命科学、食品科学、地域環境学、人間科学がそれです。教育組織は、学科制を廃して「課程制」になりました。教員は「研究域」から学部や大学院の教育に参画するわけです。畜産学部は、獣医学課程と畜産科学課程から成り（同時に、ユニットも再編）、カリキュラム面では相互の課程の科目を取れるようになっただけでなく、獣医学と畜産科学の境界領域の科目も開設されました。大学院だけでなく、学部においても、「獣医・農畜産融合」教育をおこなう体制が整ったわけです。

同窓生の皆さんからは、最近の大学は、「組織が目まぐるしく変わってよくわからん」、「卒業したところはいったいどこなんだ」、というお叱りが聞こえてきそうです。これも「大学間競争」を生き抜くための工夫であることをご理解いただきたいと思います。

帯広畜産大学の新しい教育体制について

理事・副学長

牧野 壮一
(昭和54年獣医)



帯広畜産大学は平成20年1月より、長澤秀行学長のもと新しい運営体制に変わりました。学長は、年頭のあいさつで“教員中心の大学から学生中心の大学”への変換が重要であり、再認識すべきであると強調しました。この考えをベースに、平成20年4月より新しい教育体制を構築しました。その概要を説明したいと思います。

本学の教育機構は、学部学生の所属組織である“畜産学部”、大学院学生の所属組織である“畜産学研究科”、技能教育組織である“別科（草地畜産専修）”、および構成大学として参加している岐阜大学大学院連合獣医学研究科（博士課程）と岩手大学大学院連合農学研究科（博士課程）から構成されています。なお、畜産学研究科には、獣医領域および畜産領域の融合分野によ

る基礎研究、応用研究、実践技術修得を目的とした「食の安全確保」に関する高度人材育成のため、全国で唯一「博士（畜産衛生学）」の学位を授与する畜産衛生学専攻博士課程を平成18年に設置しました。

今回の学内の新たな教育体制は、獣医農畜産融合教育の充実を図るために、（1）畜産学部の学科制（獣医学科と畜産科学科）の廃止により、獣医学課程および畜産科学課程を創設したこと、および（2）教員所属組織として新たに7研究部門から成る研究域を創設したことです。研究域には全教員が所属し、学部、大学院および別科教育を担当することをより明確にしました。このことにより、例えば獣医学教育は全教員が担当可能となり、より幅広く獣医農畜産全般を修得可能な体制を構築しました。本学の学部教育は、大学で学ぶための基盤となる「基盤教育」と、獣医農畜産の特定分野で学ぶための基盤となる「共通教育」をベースに、主に2年後期から開講される専門職業教育を学ぶための「展開教育」から構成されています。平成20年度からの入学者には共通科目をより充実し、獣医農畜産全般を幅広く修得可能な体制を構築しました。同時に、「展開教育」を提供し、専門教育を行う組織として、獣医学課程の学生が所属する「獣医学ユニット」、および畜産科学課程の学生が自分の進路や興味に合わせて選択できる6ユニット（生命科学、家畜生産科学、食品科学、環境農学、農業経済学、畜産国際協力）を構築しました。また、平成22年4月の開設に向けて、畜産学研究科の再編を現在検討しており、学部教育との連携の強化及び実質化を目指しているところです。以上の教育体制を円滑に企画・運営し、学生への各種支援を実施するために、本学には大学教育センターが設置されていて、本年4月にセンター組織の再編を行いました。より学生中心の大学として存続するために、センター機能の見直しを現在最重要課題として検討をしているところです。日高山脈から始まる果てしない大空と大地の中で、美しい自然の息吹を満喫し、充実した学生生活を過ごせるような教育環境を整備していきたいと考えています。新しい運営体制になり、新たな試みもなされているところではありますが、新体制で、本学の教育理念である“獣医農畜産の幅広い分野で活躍する専門職業人の育成”および“食の安全確保に関わる人材育成を通じて、地域及び国際社会への貢献”をさらに発展させるつもりですので、今後とも同窓会の変わらぬ御理解と御支援を宜しく願います。

大学事務局からのご報告

事務局長

山口 紀代志



本年4月1日付けで日高青少年自然の家から赴任しました。どうぞよろしくお願い申し上げます。赴任後4ヶ月あまりになりますが、十勝平野から見る日高山脈の雄大さ、豚井などの食の豊富さにすっかり帯広ファンになりました。

さて今回は、同窓会の皆様が学生時代学んだ総合研究棟I号館の改修工事が終了しましたので、その内容についてご報告します。

総合研究棟I号館（旧）学部棟）は、昭和38年～44年の間に6期に分けて建設された建物であり、築後40年前後が経過したことから、高度で多様化の進む教育・研究への対応、及び耐震性の確保と施設の老朽化改善のため、全面改修の計画をしました。

平成14年度に第1期改修工事がスタートし、平成19

年度に講義棟を含めた、約18,000㎡の第4期改修工事を終了しました。昨年12月20日には、関係各位の列席を賜り、「総合研究棟I号館改修工事完成記念式典」が行われ、国際社会において「個性輝く教育研究拠点の基盤施設」として、「食に関する優秀な人材育成」のもと社会貢献を目指すこととしております。

改修工事にあたっては、学生の利便性を考慮した、講義棟から学生窓口までの明快な動線の確保、また、学生間の交流スペースとしてコミュニケーションラウンジの設置等、新たな機能や要素の創出（Refine）をコンセプトとして計画されました。

その他、施設の効率的・効率的利用の推進、弾力的利用を目的とした全学共同利用スペースを設置しており、若手研究者育成スペースとしての対応も可能となっております。

今後の大学運営においては、厳しい財政状況の中、限られた資源を有効活用し、安全・安心で環境にやさしいキャンパス形成をめざし努力していきたいと考えております。

最後になりますが、同窓会の皆様の変わらぬご支援ご協力をお願い申し上げますとともにご健康とご発展をお祈りします。



正面



コミュニケーションラウンジ



講義棟ホール



学生窓口



インフォメーションモール



大講義室



大石前会長の御逝去を悼む

前学長
鈴木直義
(昭和30年獣医)

大石 和也前会長は、平成20年6月6日、心筋梗塞のために亡くなりました。氏は、同窓十勝会会長、そして帯広畜産大学同窓会会長として、国立から国立大学法人になった帯広畜産大学の激変期を影から支えていただきました。氏のこれまでの同窓会活動および大学への貢献に感謝し、ご冥福をお祈りいたします。享年75才。

大石氏は、北海道中川郡池田町に生まれ、昭和34年帯広畜産大学酪農経営学専攻科を終了後、池田女子高等学校講師を経て池田町役場に奉職されました。そして、昭和38年から2年間ワイン作りの習得のため西ドイツに派遣され、現在の池田ワインの基礎を築かれました。その後、平成4年には、池田町長となられ2期8年の大役を勤められました。町長勇退後も北海道環境審議会委員（平成12年）、池田社会福祉事業協会理事（平成15年）、ライオンズクラブ国際協会会長（平成15年）と休むひまなく、十勝を基盤に北海道のために尽力されてきました。大学関連では、帯広畜産大学後援会理事（平成18年）、帯広畜産大学整備拡充促進期成会理事（平成18年）と同窓会会長職以外にも帯広畜産大学の発展に寄与されてきました。また、同窓会会長としては、1年に1-2度大学執行部と同窓会役員との懇談会の設定に尽力され、大学と同窓会のパイプも太いものとなりました。大学法人化した大学は、同窓会の継続的支援がいかに必要であることかを、二人とも本当は医者からアルコール飲料を禁止されているのに、昨年12月、ワインを片手に話しあいました。

大石さんは個人的には、とてもお酒特にワインをこよなく愛し、歓談の折には、晩酌は「家内と共に飲む毎日のワイン1本」と語られていたのが、思い浮かべられます。このワインに関しては、皆様、NHKのプロジェクトXをご覧になった方もたくさんいらっしゃると思いますが、その一生を池田ワインと共に過ごしてきたといっても過言ではないでしょう。そして一昨年の暮れには、大石会長の申し出により、「酒を酌み交わしてこそ懇親」と大学執行部と同窓会役員の懇親会も行われるようになりました。彼は単なる池田ワインの創設者と言うよりも、ワインを通じ善し悪しは別として頑固なドイツ人魂を帯広畜産大学学生に植え込みたいと語っておりました。世界の動物・植物由来食糧生産性向上と食の安全確保のための職業専門技術者

の養成と、本学が叡智の地域拠点としての国公立研究教育機関との学術連携協力（スクラム十勝）の中心に多数の同窓生がおり、知識集結の必要性があります。我々はあなたの遺志を語り継ぎ実行に移すためにも、大学執行部と同窓会役員の懇親会を定期的に開催して、世界が認める大学院重点化帯広畜産大学に発展充実するように、大学に籍のある教職員は日々資質向上努力して参りたいと念じます。

大石さん、どうか安らかにお休み下さい。

故・大石君を偲んで

酪農学園大学院特任教授
堀内 一 男
(昭和33年総農)

5月に入院されたことが知らされ心配していたところ6月に入って奥様・子供さんたちの手厚い看護にもかかわらずに鬼籍に召されたとの報に友人の1人として、これまで強靱な体力と意志により幾多の困難を乗り越えてきたのにととうとうそれもならず本当に残念至極の極みであります。大石さんは、筆者より年上でしたが帯広畜大の同期として大学および専攻科の5年間池田から通学し苦楽を共にした仲であり、特に専攻科の1年間は帯広で下宿生活をともにして同じ釜の飯を食べた頃を懐かしい笑顔と談論風発、夜の更けるのも忘れて酒を飲み干した事を走馬燈のように駆け巡り思い出したところです。その後当時アイデア町長といわれた丸谷氏に請われて十勝ワインの誕生にかかわり、今日の十勝ワインのブランドに育て上げた功績は故郷再生への大勝負として広く知られています。町長時代は、町活性化に取り組み特に「百年の森構想」など地元の発展に尽くされ常に町民の進路に思いを馳せていたこと、そして町長3期目を目前にして体調を崩され退任し元気を取り戻し同窓会長に請われこれから腕を振るわれる目前にして逝去されたことを思うと改めて謹んでお悔やみ申しあげご冥福をお祈りします。

お別れのことば

同窓会会長

太田 助

(昭和32年総農)

幾たびも幾たびも、十勝川温泉・千代田堰堤を通過して、唐突に相談事を持って大石和也様、あなたのお宅にお邪魔致しました。いつも“さあどうぞどうぞ”と、今正面にある生けるが如き柔和なお顔で迎え入れて下さり、何くれとなく相談にのってくれ聞いて頂き、お誂頂きました。そのことを思いつつ、一昨日、宵闇迫るいつもの道を通ってご自宅に参りました。

大自然があなたを悼むかの如く、小雨が降りしきっております。道路脇の木々の小枝の緑葉は広がりを増し・さながら大石様あなたがいつものように助手席で笑みを浮かべて語ってくれているかの如く囁いているように思いました。

必ず快復されることを信じておりましただけに私は勿論同窓会役員メンバー、同窓十勝会役員メンバーの悲しさ淋しさ辛さがつります。その悲しさ淋しさ辛さを超えて、帯広・十勝支庁管内2千名、北海道全体で5千名、全国合わせて1万2千名の『国立大学法人帯広畜産大学同窓会の頂点にあつた、大石和也会長』の遺影を前に、全国・全道・帯広十勝のすべての同窓生を代表して「お別れのことば」を申し上げます。

いま、あなたの訃報を聞いて全国の同窓生の脳裏に思い浮かんでいるのは、平成17年8月13日にNHKで放映されたプロジェクトX【『北のワイン故郷再生への大勝負』】に出ていた、素晴らしい十勝池田町での大石様・あなたの活躍振りであります。あの時は、各地の同窓生から『われわれ同窓生の誉れである』との沢山の電話を頂いたものでした。参議院議員をなさった丸谷町長の発想と公営企業・ワイン実現の立役者と言われた大石和也様・あなたの活躍がありました。その後、池田町長として夜を日に継いで、発展的・躍進的に活躍されていました。「あなたの“一念は巖も通す”の信念」をもつての行政トップ現職の激務の中で、病魔におかされ倒れられました。そのことがあって町長を退かれましたが、身近な同窓の気のおけない仲間からは、あなたのその後の快復振り、健康振りそして、ワインの飲み振りに“未だ町長をやっている良かったのじゃないか!!”等とも言われておりました。

管内の同窓生仲間からは『是非同窓十勝会の会長をお願いしよう』と集議一決した折も、快く引き受けて下さいましたし、その後、本部同窓会会長をお願いした時にも、快く引き受けて頂きました。学長と同窓会長・大学と同窓会の交流についても、ことのほか尽力され、学長と同窓会の懇談会も屢々開かれるようになりました。『学長の気持ちを汲んだ同窓会活動が、…同窓会が大学の発展に寄与する一番の決め手だよナ!!』

私とお逢いした時の、あなたの「変わらざる決まり文句」でありました。大学で同窓会の会議終了後『チョットまた乗せて行ってヤ』と言われて、「池田までいいヨ」と言うと、殆ど『イヤ、内の…妹のところまで待っているから、そこまで頼むワ』ということで、大学での会議等には、必ず奥様が送り・迎えをして下さっております。気安くいつでも、大石家に唐突に訪れるようにしていた、私でしたが、この度の入院についても、2～3日後に知って、お見舞いに行く次第でした。集中治療室に入っておられて、直接は逢うことはできませんでした。

奥様が付きっきりのようにしておられて、経過をお聞きしました。『太田さん、今回で3回目なのヨ』と言われてびっくりしました。私は思いました。奥様は…第一回目入院されて以来、…快復された時も、…再び倒られた時も、…今回倒られた時も、何時も…一心同体を地で行くようになさっていたんだ、ということが分かりました。大石様の名刺の裏を見て、驚いたことでしたが、チョット快復すると、アノ仕事・コノ仕事と飛び歩く大石様を、奥様が常にサポートしていた姿が浮かんで参ります。今回の入院についても奥様の機転で直ぐに救急車を呼んだことで、『この状態で良く助かった』と医師に言われたと言っておられました。

こう言っている私共も、同窓会のことでは頼りっぱなしでしたから、奥様には、申し訳ない気持ちで一杯です。ご本人にも、大きな負担をかけてしまったと、感謝しつつお詫び申し上げる次第であります。同時に、奥様には、御本人以上に見えない部分で、大変なご苦勞をおかけしておりましたことに深く感謝し、お礼申し上げます。

大石様、私の頭の中はいまあなたとの思い出のページで満杯です。尽きることはありませんが、お別れしなければなりません。

どうか、池田・帯広・十勝の天空にあって、こよなくいとしく・愛し続け・支えて下さった奥様、お子様お孫様達、ご兄弟ご親族ご一統の皆様を、永久に見守り続けて下さい。

私共・同窓会員一同は、各面で輝かしい実績を残されたあなたの遺訓に学び、大学及び同窓会の発展のため努力して参りますことをお誓い申し上げ、あらん限りの感謝を込めて、お別れの言葉と致します。



**鈴木直義前帯広畜産
大学長の瑞宝重光章
受賞を称えて**

原虫病研究センター センター長
五十嵐 郁 男
(昭和52年獣医)

前帯広畜産大学長の鈴木直義名誉教授（昭和30年獣医卒）は、平成20年度春の叙勲において、多年にわたる大学運営ならびに原虫病研究と人材育成に貢献した功績により、「瑞宝重光章」を受章されました。平成20年5月8日に宮中に参内して、天皇陛下に拝謁を賜る栄に浴されました。この度の受章は、鈴木先生個人はもとより、帯広畜産大学および同窓生にとりましても大きな栄誉であります。鈴木先生の栄誉をたたえるべく、受章祝賀会が7月26日午後6時より、ホテル日航ノースランド帯広において開かれました。鈴木先生の教え子、学長時代の執行部、ラグビー部および柔道部OB、兼任教授を努めた東大や原虫病研究センターの教職員を中心に、遠く九州からの関係者も含めて約70人が出席しました。祝賀会場の式壇には瑞宝重光章が展示され、発起人の小野憲一郎東大教授の挨拶により始まりました。最初に、中川昭一衆議院議員、砂川敏文帯広市長、見上彪内閣府食品安全委員会委員長、

北沢東大大学院教授からの祝辞を戴き、高橋迪雄前帯畜大理事の発声で乾杯が行われ、懇親に入りました。続いて豊田裕前帯畜大経営協議会委員、深田泰三ラグビー部OBら7名の方から祝辞を戴きました。また、遠山敦子元文部科学大臣、ライドル・ミュンヘン大学元副学長らからの祝電も披露され、また花束や記念品が鈴木先生に贈られました。これに対し、鈴木先生は「皆様を始め多くの方々からの協力、支援を得たお蔭で、今回勲章を戴く事ができ、心から感謝しております。今後とも、健康に留意して帯広畜産大学のために尽力していく所存であります。皆様にも、帯広畜産大学の発展にご協力戴くようお願いいたします」との謝辞が述べられました。最後に、長澤秀行帯広畜産大学長の挨拶と乾杯で盛会裏に閉会したことを同窓生の皆様にお伝えいたします。





同窓十勝会の近況報告

同窓十勝会幹事長
三津原 勝
(昭和54年工学)

同窓十勝会では、大石和也同窓会長のご逝去に伴い、その後任として太田助同窓十勝会会長を推薦し、新たに由佐壽朗（前筆頭副会長）を十勝会会長に、新筆頭副会長には佐藤文俊（前副会長）を選任いたしました。任期は選任された平成20年8月9日から前役員の残任期間である平成21年9月30日までとなります。

帯広畜産大学は本年6月、文部科学省の「グローバルCOEプログラム」に採用され、7月には原虫病研究センターがアジアで初めて国際獣疫事務局（OIE）のコラボレーティングセンター（連携拠点）に認定される等、国内だけではなく国際的にも極めて高い評価を受ける研究機関となっております。

一方、地域農業に密着した研究にも数多く取り組んでおり、十勝管内の行政や農業団体など各界に数多くの優秀な人材を輩出しています。そして故大石氏がワイン町長として全国に名を馳せた事は、同窓十勝会一同の誇りでもあります。

母校の修学環境では総合研究棟I号館（旧学部棟）が改修を終え、我々が学んだかつての古びた学部棟が見違えるほどに変身しており、近くに在る当会員は、時折訪れる機会にも恵まれますが、全国の同窓生各位にも是非訪れてほしいものと思います。

しかし、帯広畜産大学も国立大学法人化に伴い、大学運営が厳しさを増してきており、各地域で活躍されている同窓生の支援が益々重要となってきております。同窓十勝会としても本部同窓会と連携し、可能な限り母校のバックアップをしてまいりたいと考えておりますので、今後とも皆様のご協力をお願いいたします。

帯広畜産大学同窓会芽室支部近況

芽室支部長
由 佐 壽 朗
(昭和41年化学)

食料自給率向上の大切さが話題になっている昨今、日本一の食糧基地十勝平野。その中で畑作を中心とした大規模経営の農業を基幹産業とする我が芽室支部を若干ご紹介いたします。帯広市に隣接し肥沃な大地と気候条件に恵まれ耕地面積は約2万ヘクタール。人口も2万弱の町です。小麦、馬鈴薯、甜菜、スイートコーンなどは北海道を代表する作物でもあります。

農業産出額は200億円を超えています。農畜産関連の企業200社以上が工業団地に続々と進出し「日本甜菜製糖工場」「明治乳業チーズ工場」「日本罐詰」などがあります。

また、研究機関として「独立行政法人農業食品産業技術総合研究機構北海道農業研究センター」「北海道立十勝農業試験場」があり、畜産大学同窓の皆さんがそれぞれの分野で活躍しております。しかし支部活動は停滞しており前回の総会（平成17年6月）も十数名の出席で寂しい想いと大きな責任を痛感いたしております。畜大同窓十勝会を重複している会員も多く、この事は組織の見直しも検討しなければと考えております。



さて残念なことに平成6年～平成15年まで初代芽室支部長をされておられた村瀬洋一さん（昭和25年酪農卒）が昨平成19年8月7日にご逝去されました。村瀬家は明治41年岐阜県から芽室町に入植され大正7年に乳牛1頭導入され酪

農の第一歩を踏み出したそうです（洋一さん3歳の時）。十勝農業学校、帯広畜産大学と酪農人生を貫いてこられました。今も健在のお父さん儀一さん（101歳）と村瀬家渡道100年記念写真集の『おかげさま』を7月に編集された直後のご逝去でした。いつも昔の畜大の話や父と孫を含めた家族四代で牛の世話する酪農は「天職」であると、私共後輩にいつも言っておられました。

あたたかいご指導を感謝申し上げ会報に紹介させていただきました。今後とも同窓会の活動と絆が益々深まることを祈念いたします。

釧路支部

杉山 智

(昭和44年獣医)

昨年初めて寄稿してからたった一年の間に農業否全産業そして人間生活全てに亘って非常に重大な問題が急浮上してきました。それは地球温暖化問題、異常気象問題は別として、原油価格の急激な暴騰と穀物国際価格の高騰の二つに集約されます。このことは農業界、産業界、国民生活さらには教育界にも混乱と苦悩をもたらすことは間違いないでしょう。しかし、私はむしろこの事は世の中が本来の姿に戻る為に必要な事でたまたま投機資金が引き金をちょっと早く引いたに過ぎないだけでいずれ起る事だ。早く起きて良かったと思っています。不謹慎でしょうか？今まで数十年間があまりにも原油も輸入食糧も他とのバランス上安すぎたと思います。その為日本は絶対失ってはいけないものを数多く失い、失いかけています。

日本は山国、木の国、瑞穂の国、水の国、魚食国です。本来しっかり行うべき山の手入れ（造材、植林、下草刈り、間伐等）、河川の手入れ（河川敷、堤防の草刈り、植林、葦原の保存等）裏山、屋敷林の保存手入れ、棚田、段々畑の維持管理保存、水田の維持存続、畑、草地の適正な維持管理を蔑ろにせざるを得なくし、無用な河川の蛇行改修、ダム建設を行ってきた付けがまわって来ただけです。一見高コスト、非効率の様ですが元来食糧を自給し山、山間地、河川、水田、畑の手入れ、防災、水源管理等を行って来た林業経営、稲作畜産経営、林業農業混合経営、中小家畜飼養経営、穀種畜産混合経営を安いオイルと安いアメリカ穀物の流入に拠って廃業、離農、後継者途絶に追い込み彼らを食糧自給生産者から食糧購入者に、生活保護、失業給付対象者にし、自然災害を未然に防いだ生活奪いその為山林、河川荒廃、自然災害の増加を招き、その復旧に膨大な国費の投入のやむなきに至らしめた。この責任はもちろんアメリカ一辺倒の外交に終始し林業、食糧自給をあっさり捨てた国、官僚、そして便利な生活にどっぷり浸かり、質素、儉約、もったいないをすっかり忘れ全てをお金に換算して考える一般国民、第1次産業を見かけの経済効率で非難してきた鉱工業界、経済界にある。本学を含め農系大学に学んだ者、農業関連分野で働いてきた者、農学を教える者としての責任を今後どのように果たすべきか。目の前の問題に追われゆっくり考える暇がないとなどとは言えない。今より生活レベルは確実に大きく下がる事、エンゲル係数が大きく上昇するのも間違いない。しかし、その時決してリッチではないが一次産業、農林業の相対的地位が上がり若い農業従事者が増え日本本来のバランスが取り戻せるでしょう。

大石同窓会長を偲んで 追悼の言葉を述べたい と思います

オホーツク支部長

坂井 清治

(昭和33年獣医)



大石同窓会長が亡くなられたと言う連絡を受けましたが、昨年の10月20日、北見のホテルで開催したオホーツク支部の総会に、長澤副学長と共にご出席頂いたのが、最後にお会いした事になります。私と大石会長は、学科は違いますが卒業は同期であります。大石会長は汽車通であり、私は寮に居りましたので、学生時代はお付き合いする機会もありませんでしたが、平成11年、私が北獣の副会長として、道の自然環境審議委員になり、その席で大石会長にお会いしました。元池田町長の大石さんだとは判りましたが、大学同期だとは知りませんでした。2年ほど経った時の審議会の終わった時、大石さんから「坂井さんは畜大33年卒ですね。」と話しかけてこられました。「畜大学長が、網走管内に管内一本の同窓会がないので、設立して欲しいんだがな」と言われていると、伝えられました。当時網走管内では、市町村毎の同窓会が有り、それなりに活動しておりましたので、これらを一本化するのには、知らない人が多いので、大変だと思いましたが、同じような話が、東藻琴の小島村長（私の同期生）からも聞かされました。平成14年の秋、KKR札幌での自然環境審議会が終わり、1階のレストランで大石さんとコーヒーを飲んでおりましたら、そこへ小島東藻琴村長と佐呂間の堀町長が町村会の会議を終えて見えられ、凶らずも畜大同窓会になり、網走管内一本の同窓会を作ろうと言う話になりました。その必要性については理解しても、皆様行政のトップの方々であり、お忙しい方ばかりでしたので、比較的暇な私が同窓会名簿を調べ、スタンバイすることになりました。平成15年9月に、北見市民会館で、畜大同窓会オホーツク支部が鈴木学長、高田同窓会会長のご臨席を頂き、設立総会を開催し、ここにオホーツク支部が発足いたしました。このように、大石会長からの立ち話が、オホーツク支部設立の切っ掛けになったのであり、本当の意味の設立功労者なのであります。大石会長には、これからの同窓会発展のために大いに期待されておられたのに、残念でたまりません。心から、感謝申し上げますと共に冥福を祈ります。安らかに眠りください。

同窓会宮城県支部の近況

宮城県支部長

佐々木 敬 功

(昭和34年獣医)



恒例の平成20年度の総会及び懇親会は、7月11日仙台駅前の居酒屋「御酒印船」で、22名の参加を得て開催しました。

これまで出席者が少なかったので、一人でも多くの方々が参加して頂けるよう2月の第3土曜日の開催を数年続けたり、5月の連休明けの最終土曜日開催するなど模索してきましたが、今年は、7月の平日、金曜日の午後6時開催したところ新しい顔ぶれも数名加わって参加者一同大いに盛り上がった中で楽しい時を過ごして戴きました。



総会は、笠井 晋（昭和42年酪農）幹事長の司会進行で、会長挨拶に続いて担当幹事より前年度の事業報告及び決算報告され、満場一致で承認された。また、世話人の見直しも行われ、4月に開催された世話人会で検討された（案）が、幹事長より10名程発表され満場一致で承認され、今後の会の運営をお願いすることとなった。

前出の支部会長挨拶として、この4月の人事異動により、宮城県農林水産部畜産課長に、峯岸こうさん（昭和48年獣医）が、初めての女性畜産課長として、また、白石喜久夫さん（昭和52年畜産経営）が、県立小牛田農林高等学校校長にそれぞれ昇格し任命された祝詞、畜大関係では、前学長の鈴木直義氏がこの春の叙勲で「瑞宝重光章」を受章されたこと、新学長には前副学長の長澤秀行氏が就任されたこと。同窓会の会長、大石和也氏が最近お亡くなりになられたことなど等。更には、第7代西川正義学長以来、本学独自の大学院博士課程設置運動がみのり18年4月、大学院博士課程「畜産衛生学専攻」の第一期生が入学し、自前の大学院博士課程を有する大学として、畜産衛生学分野に特化し

た個性輝く専門店、「重点化単科大学」としての高度人材育成のため教育研究活動費が不足しているとのこと。本支部として、今年度も後援会団体賛助会員として支援することをお願いして了解を得た。

懇親会に移り、久しぶりに出席して頂いた大先輩の樽岡新治（昭和30年獣医）さんの乾杯で宴会に入り、近況を含め会員名簿を確認しながら自己紹介、同窓会は利害関係を気にしないお付き合い、あっと言う間に3時間の会場時間切れ、帯広畜産大学逍遙歌を合唱する時間もなく、来年7月の再会を期して解散となった。

(在県会員数 92名 平成20年5月)

新潟県支部の近況

事務局

佐藤 将 典

(昭和46年獣医)

新潟県支部では、去る7月5日、新潟市で2年ぶりに同窓会を開催しました。当日は、同窓生13名の出席があり、会員それぞれの近況や畜大時代の帯広・十勝の思い出など語り合い、時間の経つのも忘れ相互の親睦を深めました。このときの若い会員の話や、最近の写真などを見ると、私が在学した昭和40年代半ばの時代とは著しく変貌を遂げ、研究棟の施設等が年々充実され、母校畜大が発展している様子がうかがわれました。

当県支部の最近の話題としては、前支部長の小林悦夫さん（昭和32年獣医、元(社)新潟県獣医師会副会長）が、平成18年春の叙勲で農林水産功労により、旭日双光章を受章され、その年の6月に五郎谷克二さん（昭和38年獣医）らが発起人となり、県支部主催で叙勲祝賀会を開催しました。また、楠原征治さん（昭和40年獣医、新潟大学名誉教授）が、平成19年4月に「鳥類の卵殻形成における骨髄骨の機能解明に関する先駆的研究」により、日本農学賞(第44回読売農学賞)を受賞され、さらに今年6月には、(社)新潟県獣医師会の会長に就任されました。

なお、平成18年6月に、支部長に伊藤道秋さん（昭和38年総農）、副支部長に不二崎順二さん（昭和49年獣医）と役員を改選しました。事務局（幹事）については、私も今年還暦を迎え定年となる身でもあり、若返りのため7月の同窓会に事務局交代を提案したところ、先輩諸兄に「お前やれ!!」と一喝、却下され、留任となりました。

最後に、今年6月14日に発生した「岩手・宮城内陸地震」で被災された同窓生の皆様方に、心からお見舞い申し上げます。ご存知のとおり、新潟県でも、平成16年10月の「中越地震」、また昨年7月の「中越沖地震」と、立て続けに大きな地震に襲われました。約4年が経過する「中越地震」の復旧は現在ほとんど終了し、

長岡市山古志地区では、震災復興関連事業により、昨年末に牛舎等が新築され経営を再開することができました。これら地震の際には、各支部の皆様から多くの励ましのメッセージをいただき、この場を借りて感謝、御礼を申し上げます。

関東同窓会の近況

関東同窓会前会長

田中正三

(昭和31年獣医)



本年度の関東同窓会総会及び懇親会は、6月21日(土)15時から銀座ライオン6階ホールで、母校の長澤秀行新学長、山口紀代志新事務局長、鈴木前学長のご臨席を頂き、会員60余名が参加して開催されました。以下にその概要を中心にお知らせします。

総会は加藤幹事長の司会で、会長挨拶に続いて事務局の各担当幹事から前年度の事業・会計・決算報告や本年度の事業計画・会計予算のほか、会則の一部改正、20年度役員改選等の議案説明がなされ、各号議案の審議を経て何れも原案通り可決承認されました。

今年度総会の特記事項の1つに会則の一部改正があります。これは昨年、永年の懸案事項であった会員登録の見直しを行った結果に合わせて会則の一部改正を行なったものです。その要点は従来卒業生が関東地区に居住または勤務していることを根拠に会員と見做して登録してきた方式を改め、本人による任意の入・退会申告に基づく入退会登録と年会費の納入、登録内容変更時の申告義務等を明確に規定したほか、事務所の所在地、会計年度、役員の任務規定等の条文をそれぞれ実態に合わせて一部改正しました。

昨年会員の見直し申告開始以降、現在会員として300余名が登録されております。従来の見直し会員の多くが整理された結果、より実質的で効率的な事業活動が実施可能となりました。

次に任期満了に伴う役員改選ですが、2年前の前回は幹事長と監事の交代のみで他は留任でしたが、今回は可成り大幅な改選となりました。まず、田中正三会長が辞任し副会長の森田邦雄氏が新会長に、また長く副会長を勤めた梶隆、野川浩正の両氏が退任して、猪田昭三、楠崎秀夫、太田修一の三氏が新たに副会長に就任し、監事も伊藤馨、中林哲男の両氏に交代しました。

事務局は、加藤幹事長はじめ総務、会計、広報、名簿の各担当常任幹事の多くが留任したほか5名の新常任幹事も加わり、森田新会長を中心に強力な新体制が発足しました。森田会長は、役員はじめ皆様のご支

援ご協力を得ながら、精一杯会の発展に尽力したい旨挨拶されました。

総会後の懇親会では、長澤新学長から就任の挨拶と共に母校の近況が伝えられ、今年も前年に引き続いて、教育・研究・国際連携・地域貢献等の各分野において力強い展開を見せていること、特に「研究教育拠点・COE」に対する5年間の最終実績評価の上で立って計画された新規の「グローバルCOE」では、厳しい難関を乗り越えて再び全国でも数少ない卓越した研究拠点のひとつに選定されたことが報告されました。このことは、母校は勿論のことわれわれ卒業生にとっても大変な名誉と誇りであり、心からの敬意と賛辞を贈りたいと思います。

また、今年春の叙勲で栄えある瑞宝重光章をお受けになられた鈴木直義前学長の叙勲のお祝いでは、長澤新学長から叙勲の経緯と功績の概要についてご紹介があり、当会の池ノ谷常任幹事による花束贈呈、続いて同期生の時田元幹事長の発声に合わせ全員で乾杯し祝意を表しました。

鈴木前学長からは、これまでの協力支援に対する感謝の言葉と共に、先刻当同窓会に入会登録を済ませ今後は一会員として皆さんと共に交流を深めたい旨のご挨拶がありました。

最後になりましたが、私の会長在任中無事大過なく任期を終わることが出来た事は、偏に皆様方のご支援とご協力の賜物と心からお礼申し上げます。この6年間に果たし得なかった課題も多いのですが、今後は森田新会長を中心に役員・会員一同が一体となって連帯感を高め、強固な会員組織を築きますます発展させていただくよう心からお願い申し上げます。

兵庫県支部の概要

兵庫県支部会長

俵孝

(昭和37年獣医)



会員名簿によると、現在兵庫県には、約100名の同窓生が住んでいることになっている。

同窓会は、定期的に年1回開催しており、毎年20名前後の参加者がある。

人数が少ないという人もいるが、私としては、他の大学に比べれば出席率は良い方ではないかと思っている。

05年と07年には、学長にもお越しいただいており、会長が頼りない割に何とか格好がついているのは、偏に事務局を担当してくれている後輩諸君のお陰といつも感謝している。

会は、通常夕方から挨拶もそこそこに飲み会スタイ

ルで始めているが、学長と語る会として近畿地区有志にも呼びかけた年には、スピーチの時間もとり、少し改まった雰囲気のある宴会になったこともある。

私達の年代のオールドボーイは、寮生活でいつも飢えていたことが話題の中心になる。

それもすでに何遍も語り、且つ聞いたことのあるものばかりなのに、これが大いに受ける。同窓会ならではの雰囲気による現象に違いない。

中でも、最も古い先輩の時代、寮で出された主食の馬鈴薯と副食としての馬鈴薯の見分け方などは、これを聞かずに帰れないくらいおかしくも悲しい話である。

しかし、この話、実際に食糧難という言葉が使われた時代に学生生活を送った世代でないと、本当の意味を理解するのは困難であろう。

時は移り、政府が真剣にメタボリック対策に乗り出す飽食の時代を迎えた今日、同窓会についても、若い人たちのニーズと私達の年代のそれとは、相当なギャップがあって当然である。

最近の風潮を前提にすると、従来のような同窓会のやり方に問題が無いはずはない。次回開催までに、幹部や事務局の諸君と検討してみようと考えている。

鳥取全共と広島、島根、鳥取3県の合同畜大同窓会の開催

鳥取県支部会長

朽木 廣

(昭和23年農獣)



昨年(平成19年10月11日~14日)和牛のオリンピックといわれている第9回全国和牛能力共進会鳥取県大会(鳥取全共)が鳥取県の米子市を中心に行われ、その機会に広島、島根、鳥取の3県合同同窓会を開催しました。鳥取県での開催は3回目で、提唱者は広島県の前同窓会長の橋本秀夫広島大学教授(昭23獣医卒)で3県持ち回りとなっています。岐阜県高山市で2002年9月に開かれた第8回岐阜全共では同県代表の種牛と肉牛で最高位の優等賞、種牛の部のグランドチャンピオンに輝いた。更に肉牛の部でも第7回若手全共の10位を超える1キロ10万6千円の高値が付いた。

鳥取県では「全共を和牛復興の礎にする」更に「全国の人に鳥取県の良さを知ってもらおう」。計画では、メイン開場の米子崎津団地で鳥取県の観光、文化、食をまるごと発信。サブ開場の境港市は隠岐島とタイアップし、魚と鬼太郎、牛突きのコラボレーションで広域観光をPRする。期間中に延べ25万人が訪れ、5万泊、その経済効果は50億円以上と試算している。

今回の出席者は広島7名、島根4名、鳥取7名、10月13日に米子市の皆生温泉の弓ヶ浜荘で夜、懇親会を

行い宿泊し、翌日、全共のメイン開場を視察し会場内のバーベキューハウスで昼食を摂り、次回の島根県での開催を約束し解散しました。

【とりまとめ】

1. 期間中晴天に恵まれ、各会場が大勢の人でにぎわった。来場者は目標を大きく上回り27万2千人、市民ボランティアが手づくりのもてなしで、ごみも落ちていないと。
2. この全共に広島県の同窓会員で参加された平山文治(昭45年酪農卒)の出品牛(肥育牛)が全国3位となる。万歳々々

創立40周年を迎えるにあたって

九州支部会長

深田 泰三

(昭和30年酪農)



九州支部は、昭和43年10月、南の果て九州の「福岡市」で、11名が(当時の会員数は、20名)自然発生的に参集して、賑やかに、産声をあげました。このときに、会員は、九州在住者とする(昭和47年に祖国復帰の沖縄県を追加)。会長は、深田泰三(昭和30年酪農卒)事務局は、故高山邦彦(昭和42年酪農卒)と高木信紘(昭和42年獣医卒)とする。毎年11月の最終土曜日に定期総会を行うことのみを決定し、20周年の記念誌「碧雲」の出版を経て、いつの間にか、40年が経過しました。これもひとえに、事務局をはじめとする会員諸氏の、「酒好き」「語り好き」「十勝好き」の賜物と、心から、感謝しております。

40年間の、県別開催状況をみると、福岡が9回、熊本が7回、宮崎と佐賀が各6回、鹿児島が4回、長崎と大分が各3回、沖縄が2回となっています。この中で、事前に学会情報を入手した、昭和45年福岡での農芸学会、昭和48年と昭和59年と平成9年の鹿児島での獣医学会、昭和52年と平成2年の宮崎での獣医学会では、多数の恩師を囲んで、盛大に、開催しています。

ところで、私を含めた参集者は、雄大な日高の山々、青く澄みきった空、広大で豊かな大地、カッコウの声など、あの十勝の大自然の中で、心おきなく、青春を謳歌できたことを、酔うほどに、眼光を輝かせ、世代を越えて、誇り合える「つどい」を楽しみにしているのです。

さて、現在、会員数は、186名と大所帯となりましたが、年を追うごとに、当支部でも、参集者の高齢化と減少傾向が進行しています。そこで、平成17年、森田満雄(昭和49年獣医卒)、村上建徳(昭和49年酪農卒)、

家入誠二（昭和55年工学卒）の3名を副会長とし、若手会員諸氏の、積極的な参画をめざしています。今後とも、この素晴らしい会が、脈々と、永遠に継続せんことを、心から、祈念してやみません。

また、40周年は、11月15日（土）午後6時より、自然発生の地「福岡市内」のホテルコムズ福岡で、50名程度の参集をめざして、すでに、準備を進めています。

大阪支部より総会・忘年会のお知らせ

このたび大阪支部では、忘年会をかねて臨時の総会を行うことになりました。大阪府下在住もしくは職場にお勤めの方々（約240名）へご案内状をお送りします。お友達先輩後輩お誘い合わせの上みなさまぜひご参集ください。

現在は大阪にはいないけれどもぜひ参加したい！ちょうど出張で大阪に…という方は下記連絡先までご一報ください。改めてご案内状を送付させていただきます。

併せて今後の大阪支部運営方針などをこの機会に同窓生の皆様にご承認いただく予定です。

日 時 11月29日（土）18：00～20：00

場 所 堂島ホテル
大阪市北区堂島浜2丁目
TEL 06-6341-3000

連絡先 同窓会大阪支部事務局 中川まで
FAX 06-6482-9032

会 員 だ よ り

母校で卒後30年の旧交を温める

53卒同窓会代表世話人

辻 修

（昭和53年工学）

さる9月13日土曜日、昭和53年に帯広畜産大学を卒業した同窓生74名がリニューアルした母校において、同窓会を開催し、旧友と盃を交わし旧交を温めました。

当日、午後3時に集合した我々は、我々の通っていた薄暗い学部棟とはまったくイメージの異なる建物の見学をし、モンゴルから時間ぎりぎり参加した同期の長澤学長より、畜大の現状を大講義室にて、拝聴しました。

その後、会場を生協前広場に移し、記念写真撮影後、ジンギスカンや魚介類の炭火焼をえさに生ビール、ワイン、日本酒などを次々と飲み干し、アルコールが体内を巡ると同時に30年前にタイムスリップしました。宴会の終わる午後7時頃には、畜大名物の逍遙歌を長澤学長の前口上にあわせ、みんなで肩を組み合い大合唱となりました。



またオプションとして、全国唯一のバンエイ競馬に参加した三十数名は、帯広競馬場にて当日の最終12レースの「昭和53年畜大卒記念」を観賞しつつ、2次会を楽しみました。



五十路も過ぎ、酒席では体の不調や健康管理に花の咲く年頃で、お酒の方もそれに伴い自重気味の面々が多くを占める年齢層ではありますが、30年前の話をえさに、若い頃の勢いでお酒を飲みすぎた同窓生が多かったのではと思います。と、かく言う私もその1人で

はありますが…何はともかく、楽しいひと時でありました。また、これを機会に、40年後、50年後と同窓会を開きたいものだといいつつ、帰路に着いた一日でありました。



訃 報

謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。[敬称略]

徳 田 敬 二 (S19獣医畜産)	七 田 茂 (S35総 農)
和 田 勝 美 (S19獣医畜産)	土 屋 公 美 (S37総 農)
安 部 康 之 (S20獣医畜産)	高 原 功 (S39別 科)
大 島 誠 二 (S23農専・農芸)	堀 川 喜 央 (S40農 化)
佐々木 久 勝 (S24農専・獣医)	秋 山 治 樹 (S40酪 農)
村 上 四 郎 (S24農専・獣医)	竹 田 博 光 (S40酪 農)
小梁川 則 之 (S25農専・獣医)	渡 会 信 昭 (S40酪 農)
亀ヶ森 孝 昌 (S25農専・農学)	氏 間 慎 夫 (S41総 農)
長 井 忠 雄 (S25農専・農学)	北 原 伸 也 (S42工 学)
村 瀬 洋 一 (S25農専・酪農)	元 山 耕 平 (S42別 科)
佐 藤 健 一 (S26農専・農芸)	鈴 木 聖 麿 (S42別 科)
千 田 晴 久 (S26農専・農芸)	川 添 永 典 (S44草 地)
太 田 義 夫 (S28獣 医)	前 島 英 人 (S46酪 農)
大 西 忠 雄 (S28獣 医)	小 俣 吉 孝 (S47獣 医)
毛 利 正 (S29酪 農)	河 原 秀 幸 (S47別 科)
安 養 勲 (S30総 農)	南 出 昭 広 (S48農 化)
井 上 貞 士 (S30総 農)	城 村 敏 明 (S49獣 医)
山 城 昇 (S30総 農)	加 藤 大 輔 (S54環 境)
平 緒 義 親 (S30総 農)	浅 村 司 (S56環 境)
芳 村 恒 男 (S31酪 農)	川 端 理 恵子 (S59草 地)
中 島 玉 雄 (S32獣 医)	田 端 広 和 (S61工 学)
茂 木 宏 (S32総 農)	関 根 晋 平 (S63生 産)
大 石 和 也 (S33総 農)	長 瀬 竜 也 (H10別 科)

※2007年7月から2008年現在までに、本部事務局にご連絡をいただきました。

事務局だより

平成19・20年度役員 (任期：平成19年10月～平成21年9月)

会 長	太 田 助 (昭和32年総農)
	(平成20年8月～平成21年9月)
副 会 長	松 井 孝 志 (昭和29年酪農)
副 会 長	由 佐 寿 郎 (昭和41年農化)
	(平成20年8月～平成21年9月)
副 会 長	坂 井 清 治 (昭和33年獣医)
副 会 長	田 村 誠 朗 (昭和39年獣医)
副 会 長	樋 口 昭 則 (昭和46年酪農)
副 会 長	松 井 高 峯 (昭和46年獣医)
事 務 局 長	辻 修 (昭和53年工学)
名簿編集委員	熊 瀬 登 (昭和49年酪農)
名簿編集委員	岸 本 正 (昭和55年工学)
名簿編集委員	三津原 勝 (昭和55年農工)
庶 務	高 橋 英 三 (昭和50年酪農)
庶 務	小 嶋 道 之 (昭和55年農化)
庶 務	嶋 田 照 雅 (平成02年獣医)
会 計	手 塚 雅 文 (昭和60年生産)
会 計	井 上 昇 (平成06年獣医)
監 事	柏 村 文 郎 (昭和49年酪農)
監 事	松 田 清 明 (昭和41年総農)
顧 問	吉 川 睦 夫 (昭和25年酪農)
顧 問	三 浦 弘 之 (昭和30年酪農)
顧 問	高 田 薫 (昭和31年総農)

2. 役員改選	会長・副会長	全員留任
	事務局 長	旧：西村 昌和 新：辻 修
	名簿編集員	旧：井上 昇 新：熊瀬 登
	庶 務	旧：辻 修 新：嶋田 照雅
	会 計	旧：柏村 文郎 新：井上 昇
	監 査	旧：山田 純三 新：柏村 文郎

以上の交代がありました。

以上の結果は、ホームページの会則、役員の欄を参照してください。

報告事項

1. 平成18年度事業報告
2. 平成18年度会計報告
3. 平成18年度会計監査報告
4. 平成19年度事業計画報告
5. 平成19年度予算報告
6. 同窓会代議員の変更報告

以上6件の報告があり、その他で、鈴木学長よりモンゴル支部、フィリピン支部の設立が報告されました。

以上を持って総会は終了いたしました。引き続き、同会場にて懇親会が開催されました。

参加者は道内外、遠くは静岡県、徳島県、千葉県からの会員も参加され、総勢41名で賑やかに執り行われました。

以 上

平成20年度 帯広畜産大学同窓会 臨時総会議事録

出席者(敬称略) 役員参加以上36名

委任状 15通

開催日時 平成20年8月9日(土) 午後2時30分から

場 所 総合研究棟1号館 E2501

議 題

1. 大石会長逝去にあたり新会長候補の選出
辻事務局長から代議委員会で太田現副会長を会長候補として、太田副会長が会長就任に当たり空白となる副会長枠に十勝支部の役員である由佐氏を候補として選出したことが伝えられた。本件は、参加会員全員一致で承認された。

以 上

平成19年度 帯広畜産大学同窓会 総会議事録

出席者 41名

開催日時 平成19年10月13日(土) 午前11:00～

場 所 十勝農協連ビル5階 大会議室

大石会長の挨拶、来賓の鈴木学長挨拶後、議長に由佐氏を選出し、議長の議事進行により総会が執り行われた。

審議事項

1. 会則変更

第8条 本会は帯広畜産大学長を名誉会長に推薦する。

の条文を追加し、以後の条文番号を繰り下げた
第9条の副会長5名を若干名に変更した

平成19年度 事業報告

事務局庶務

小 嶋 道 之
(昭和55農化)

- 平成19年10月13日 帯広畜産大学同窓会総会（農協連ビル）開催
- 10月18日 学士編入学試験合格者、第3年次編入学合格者へ協賛金納入願いを発送
- 12月5日 第1回役員会開催
- 12月13日 推薦入学合格者、特別選抜合格者、別科推薦入学合格者へ協賛金納入願いを発送
- 平成20年2月4日 大学院修士課程第2次募集一般選抜・社会人特別選抜合格者へ協賛金納入願いを発送
- 2月21日 大学院博士後期課程一般選抜・社会人特別選抜合格者へ協賛金納入願いを発送
- 3月7日 前期日程一般選抜合格者、別科一般選抜合格者、私費外国人留学生特別選抜合格者へ協賛金納入願いを発送
- 3月17日 学内役員会開催
- 3月中旬 卒業及び修了予定者に終身会費納入願いを配布
- 3月20日 卒業式会長祝辞
- 3月21日 一般選抜後期日程合格者へ協賛金納入願いを発送
- 3月28日 一般選抜後期日程合格者へ協賛金納入願いを発送
- 5月14日 臨時役員会開催
- 5月中旬 新入生協賛金納入者へ記念品配布
- 8月9日 第2回役員会、第1回代議員会及び臨時総会開催
- 9月5日 大学院修士課程・博士前期課程、大学院博士後期課程合格者へ協賛金納入願いを発送

事務局への連絡

同窓会支部活動のお知らせや役員の変更、会員の逝去など同窓会事務局に随時お知らせ下さい。同窓会のホームページへの掲載や支部会員宛のタックシール作りなどをお手伝いします。

なお、同窓会事務局は、月曜日と金曜日の午前10時

から午後5時まで事務職員が直接、電話対応をいたします。火曜日から木曜日に関してはFAX対応となりますのでよろしく申し上げます。また、緊急な場合は、下記の事務局員にご連絡下さい。

・事務局電話およびFAX：0155-49-5996
対応事務職員 平方 英代

・緊急時対応電話（0155-49）
辻 事務局長：5510 小嶋庶務担当：5547
嶋田庶務担当：5376 手塚会計担当：5417
岸本名簿担当：5522

・ホームページ
<http://www.obihiro.ac.jp/~dousou/>

・E-mail
dousou@obihiro.ac.jp

編集後記

帯広も初霜の降りる季節となり、街路樹は赤や黄色に紅葉する季節となりました。会員の皆様には、お元気で過ごしてはいかがでしょうか。さて、私、事務局長に就任し、初めての同窓会報の編集をやらせていただきました。今回から、不評であった大学の挨拶文を極力削り、会員の声を多く取り入れた紙面に工夫してみました。また、大石前会長のご逝去に伴い、会報の発送は遅れましたが、大阪支部の総会・忘年会のお知らせを掲載することができました。九州支部に関しては、発行が遅れてすいませんでした。郵送費で、支部活動が停滞するとの多くの意見を聞き、今後こんな形でも会報を使っただけならばと考えています。また、学長・私を含む昭和53年卒同窓生は、本年度、新しくなった畜大で卒後30年の同期会を開催しました。こんなニュースも載せて行きたいと思いますので、色々な原稿を上記、同窓会事務局宛、送付いただければ幸いです。E-mailも5Mまでなら写真の添付もOKです。皆様の投稿をお待ちしています。

最後に、10月11日平成20年度第1回代議員会を開催し、会報末の平成19年度会計決算、平成20年度予算が了承されたことを報告いたします。そして大きな事業としては、70周年事業に向けて動き出すことも了承されました。その折は同窓生皆様のお力をお借りすることが多々あるかと存じますが、ご協力をお願いいたします。（文責：辻修）

平成18年度会計報告 帯広畜産大学同窓会平成18年度決算報告

(平成18年10月1日～平成19年9月30日)

【通常会計】

収入の部

項 目	H18予算	H18決算	増 減	備 考
前年度繰越金	8,296,809	8,296,809	0	平成17年度より
名簿販売	600,000	681,000	81,000	名簿：3,000円×226、50周年写真集：3,000円×1
終身会費、協賛金	4,000,000	4,430,000	430,000	20,000円×221、10,000円×1
雑収入	50,000	173,754	123,754	利子、広告料、祝賀会費、寄付
特別会計から	0	0	0	
合 計	12,946,809	13,581,563	634,754	

支出の部

項 目	H18予算	H18決算	増 減	備 考
印刷代	4,000,000	3,154,604	△ 845,396	名簿印刷800冊、会報誌13号9,000部、会報誌14号9,000部
大学後援経費	300,000	100,000	△ 200,000	後援会100,000円、大学への200,000円支払い保留
通信、郵送料	1,000,000	554,691	△ 445,309	受取人払い、役員会等連絡、会報発送
人件費	700,000	700,630	630	名簿整理等アルバイト代
事務費	100,000	93,929	△ 6,071	事務用品
会議費	100,000	30,000	△ 70,000	弁当、お茶代
交通費	100,000	50,490	△ 49,510	役員旅費
役員手当	190,000	190,000	0	10,000円×19名
記念品代	200,000	435,000	235,000	キーホルダー435円×1,000個（5年分）
雑費	100,000	267,919	167,919	振込手数料、二重払い返金等
予備費	6,156,809	8,004,300	1,847,491	平成19年度へ繰越
特別会計へ	0	0	0	
合 計	12,946,809	13,581,563	634,754	

【特別会計】

収入の部

項 目	H18予算	H18決算	増 減	備 考
前年度繰越金	20,000,000	20,015,961	15,961	定期預金利息
通常会計から	0	0	0	
合 計	20,000,000	20,015,961	15,961	75周年記念事業準備積立金



支出の部

項 目	H18予算	H18決算	増 減	備 考
通常会計へ	0	0	0	
合 計	0	0	0	

平成18年度監査報告（平成18年10月1日～平成19年9月30日）

帯広畜産大学同窓会の上記期間の監査を実施したところ、適切に処理されていることを認めます。

平成19年10月4日

監 事 山田 純三 
 松田 清明 

帯広畜産大学同窓会平成19年度予算

(平成19年10月1日～平成20年9月30日)

【通常会計】

収入の部

項 目	H19予算	H18決算	増 減	備 考
前年度繰越金	8,004,300	8,296,809	292,509	平成18年度より
名簿販売	90,000	681,000	591,000	3,000円×30部
終身会費、協賛金	4,000,000	4,430,000	430,000	20,000円×200
雑収入	50,000	173,754	123,754	寄付、利子
特別会計から	0	0	0	
合 計	12,144,300	13,581,563	1,437,263	

支出の部

項 目	H19予算	H18決算	増 減	備 考
印刷代	1,500,000	3,154,604	1,654,604	会報印刷（発送作業込み）
大学後援経費	300,000	100,000	△ 200,000	後援会へ300,000円
通信、郵送料	500,000	554,691	54,691	受取人払い、役員会等連絡
人件費	700,000	700,630	630	名簿整理等アルバイト代
事務費	100,000	93,929	△ 6,071	事務用品
会議費	100,000	30,000	△ 70,000	役員会ほか
交通費	100,000	50,490	△ 49,510	役員旅費
役員手当	190,000	190,000	0	10,000円×19名
記念品代	0	435,000	435,000	H18年度に5年分購入
雑費	200,000	267,919	161,673	振込手数料、他
予備費	5,454,300	8,004,300	2,550,000	平成18年度から繰越
特別会計へ	3,000,000	0	△ 3,000,000	
合 計	12,144,300	13,581,563	1,437,263	

【特別会計】

収入の部

項 目	H19予算	H18決算	増 減	備 考
前年度繰越金	20,015,961	20,015,961	0	75周年記念事業準備積立金
通常会計から	3,000,000	0	△ 3,000,000	
合 計	23,015,961	20,015,961	△ 3,000,000	

支出の部

項 目	H19予算	H18決算	増 減	備 考
通常会計へ	0	0	0	
合 計	0	0	0	

平成19年度会計報告 帯広畜産大学同窓会平成19年度決算報告

(平成19年10月1日～平成20年9月30日)

【通常会計】

収入の部

項 目	H19予算	H19決算	増 減	備 考
前年度繰越金	8,004,300	8,004,300	0	平成19年度より
名簿販売	90,000	117,000	27,000	3,000円×39部
終身会費	4,000,000	3,860,000	△ 140,000	20,000円×186 (学生協賛金)、20,000円×7 (終身会費)
雑収入	50,000	161,320	111,320	寄付、利子、懇親会費
特別会計から	0	0	0	
合 計	12,144,300	12,142,620	△ 1,680	

支出の部

項 目	H19予算	H19決算	増 減	備 考
印刷代	1,500,000	0	△ 1,500,000	H20年度に執行
大学後援経費	300,000	300,000	0	後援会へ300,000円
通信、郵送料	500,000	74,834	△ 425,166	受取人払い、役員会等連絡
人件費	700,000	609,120	△ 90,880	名簿整理等アルバイト代
事務費	100,000	49,111	△ 50,889	事務用品
会議費	100,000	38,898	△ 61,102	お茶代、臨時総会広告
交通費	100,000	58,000	△ 42,000	役員旅費
役員手当	190,000	0	△ 190,000	平成20年度支払い
記念品代	0	0	0	H18年度に5年分購入
雑費	200,000	264,255	64,255	振込手数料、二重払い返金等、懇親会費立替
予備費	5,454,300	10,748,402	5,294,102	平成20年度に繰越
特別会計へ	3,000,000	0	△ 3,000,000	
合 計	12,144,300	12,142,620	△ 1,680	

【特別会計】

収入の部

項 目	H19予算	H19決算	増 減	備 考
前年度繰越金	20,015,961	20,015,961	0	75周年記念事業準備積立金
雑収入	0	37,387		北洋、ろうきん、しんきん利息
通常会計から	3,000,000	0	△ 3,000,000	
合 計	23,015,961	20,053,348	△ 2,962,613	

支出の部

項 目	H19予算	H19決算	増 減	備 考
通常会計へ	0	0	0	
合 計	0	0	0	


平成19年度監査報告 (平成19年10月1日～平成20年9月30日)

帯広畜産大学同窓会の上記期間の監査を実施したところ、適切に処理されていることを認めます。

平成20年10月3日

監 事

松田清明 

柏村文郎 

帯広畜産大学同窓会平成20年度予算

(平成20年10月1日～平成21年9月30日)

【通常会計】

収入の部

項 目	H20予算	H19決算	増 減	備 考
前年度繰越金	10,748,402	8,004,300	△ 2,744,102	平成19年度より
名簿販売	600,000	117,000	△ 483,000	名簿：3,000円×200冊
終身会費	4,000,000	3,860,000	△ 140,000	20,000円×200（学生協賛金）
雑収入	50,000	161,320	111,320	利子、広告料、寄付、懇親会費
特別会計から	0	0	0	
合 計	15,398,402	12,142,620	△ 3,255,782	

支出の部

項 目	H20予算	H19決算	増 減	備 考
印刷代	3,000,000	0	△ 3,000,000	名簿印刷800冊、会報誌15号9,000部
大学後援経費	300,000	300,000	0	後援会300,000円
通信・郵送料	500,000	74,834	△ 425,166	受取人払い、役員会等連絡、会報発送、名簿発送
人件費	700,000	609,120	△ 90,880	名簿整理等アルバイト代
事務費	100,000	49,111	△ 50,889	事務用品
会議費	100,000	38,898	△ 61,102	役員会ほか
交通費	100,000	58,000	△ 42,000	役員旅費
役員手当	380,000	0	△ 380,000	10,000円×19名×2年分
記念品代	0	0	0	H18年度に5年分購入
雑費	200,000	264,255	64,255	振込手数料、二重払い返金等
予備費	7,018,402	10,748,402	3,730,000	平成19年度から繰越
特別会計へ	3,000,000	0	△ 3,000,000	1,000,000×3（契約継続時に各銀行へ増資）
合 計	15,398,402	12,142,620	△ 3,255,782	

【特別会計】

収入の部

項 目	H20予算	H19決算	増 減	備 考
前年度繰越金	20,053,348	20,053,348	0	定期預金
通常会計から	3,000,000	0	△ 3,000,000	1,000,000×3（契約継続時に各銀行へ増資）
合 計	23,053,348	20,053,348	△ 3,000,000	70周年記念事業準備積立金

支出の部

項 目	H20予算	H19決算	増 減	備 考
通常会計へ	0	0	0	
合 計	0	0	0	